

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄の外人住宅に関する研究

-その歴史的展開及び計画内容を中心として-

メタデータ	言語: 出版者: 地域社会研究所 公開日: 2014-02-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小倉, 暢之, Ogura, Nobuyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/28477">http://hdl.handle.net/20.500.12000/28477</a>

## まとめ

沖縄は本土復帰して20年を迎えた。その間に市民生活とりわけ生活文化面での米国の影響は次第に薄らいで、今日では米国軍人軍属家族と地元住民の生活レベルの格差は30年前の様な大きなものではなく、むしろ部分的には逆転したところも見られるようになってきた。こうした今日の状況からすれば、外人住宅の内容はそれほど驚くものではない。しかし、30年前の状況において地元住民の生活観からは、外人住宅に見られた高度に近代化された内容には一種の憧れを抱かせるのに十分なものがあり、その後の民間住宅の展開に一つの方向性を示す存在でもあった。

こうした建築史・建築意匠的観点からも特色ある外人住宅についてこれまで本格的な調査研究が殆どなされなかったのは、米軍支配下にあった時の産物という社会的観念によるところが大きいものと思われる。しかし、建築史及び意匠的視点から外人住宅を捉える時、近代建築技術の先進地域から非先進地域への導入、及びその地元への普及という点において極めて意義深い対象として注目される。取り分け外人住宅は、設計・施工に厳しい制約のある基地内住宅とは異なり、地元民間業者による採算ベースで作りに上げられたものであり、いわば当時の建築生産体制の建前でない本音の姿で展開されたところに特色がある。

外人住宅がドル獲得産業としてクリーンヒットし、1万2千戸を上回る膨大な数の住宅が建設されたのは、米国と沖縄の生活水準の大きな格差もポイントの一つとしてあげられる。このような状況の中で多くの地元住民が外人住宅を含め基地内外の多くの軍人軍属の住宅に建設関係者あるいはハウスマイド、庭師等として関わり、直接的に洋式住宅に出会う機会が得られたのは日本本土の終戦直後の状況とは違い、地域全体がかなり大きな影響を受けたのであった。洋式文化の影響という点においては、外人住宅のみならず基地内住宅も含めての影響とみななければならないが、1万2千戸という量は基地内住宅の量をはるかに上回るものであり、外人住宅の量的側面からの影響力には無視し得ないものがある。そしてそれはまた建築技術においても多くの技術者や職人が関わり、彼等がその後の本島・離島での住宅建設に広く関わっていることもコンクリート造住宅の普及に強く影響していることとして注目される。

本研究では外人住宅について第1章で発生と展開、第2章で分布状況、第3章で建設技術、そして第4章で地元民間住宅への影響を論じたが、対象が広範囲になり個々の内容については更に今後深める必要がある。外人住宅の手本となった基地内住宅のスタンダードの成立及び米国の住宅との関係、さらには沖縄以外の地域における外人住宅との比較等は今後の課題としたい。

## 主要参考文献

- 伊志嶺安進, 「沖縄気象歳時記」, ひるぎ社, 1987
- 上津順道, 「外人住宅の維持管理に付いて」, 建築士, no.3, 1959, pp.41-42
- 大城鎌吉, 「回想八十五年」, 大扇会, 1980
- 大城龍太郎, 「沖縄の復興断片－建築家から見た戦後10年」, 専修学校沖縄建築専門学校, 1989
- 沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課, 「沖縄の米軍基地が地域経済に与える影響調査報告書」, 沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課, 1988
- 沖縄金属腐食対策協議会, 「米軍施設牧港住宅コンクリート調査報告書」, 沖縄金属腐食対策協議会, 1988
- 沖縄県建設業協会, 「戦後建設業の歩み」, 沖縄県建設業協会, 1974
- 沖縄建設産業要覧刊行会, 「沖縄建設産業要覧」, 琉球行政学会, 1968
- 沖縄県総務部渉外課, 「沖縄の米軍基地関係資料」, 沖縄県庁, 1972
- 沖縄タイムス編集部, 「貸し住宅規制は一方的－住宅組合が留保声明」, 沖縄タイムス, 1月26日号, 1961
- 小倉暢之 他, 「沖縄のスクリーンブロックに関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1989, pp.633-636
- 屋田直勝, 「建築士法について」, 建築士, no.5, 1961, pp.22-25
- 我那覇 昇, 「防水につて二、三の私見」, 建築士, no.3, 1959, pp.34-36
- 金秀鉄工株式会社, 「鉄と共に三十五年－金秀鉄工三十五年の歩み」, 金秀鉄工株式会社, 1982
- 金城信吉, 「沖縄の住まい文化考」, 青い海, 85号, 青い海出版社, 1979, pp.113-17
- 具志堅 博, 「軍工事を通しての所感」, 建築士, no.1, 1957, pp.6-8
- 具志堅 博, 「軍施設の沖縄建築界への影響」, 建築士, no.7, 1972, pp.8-12
- 具志堅 博, 「沖縄における防蟻対策に就いて」, 建築士, no.5, 1961, pp.15-17
- 月刊タイムス編集部, 「米人家庭見たまま－メイドの日記より－」, 月刊タイムス, 第25号, 1951年2月号, pp.18-21
- 建築士編集部, 「住宅座談会」, 建築士, no.4, 1960, pp.17-39
- 建築士編集部, 「ブロック品質保全法」, 建築士, no.5, 1961, pp.22-23
- 国場組社史編纂委員会, 「国場組社史創立50周年記念」, 株式会社国場組, 1984
- 鈴木雅夫, 「住宅風土のデザイン－沖縄の暮らしと住まい－」, ひるぎ社, 1989
- 中村愛一, 「建築設備について」, 建築士, no.7, 1972, p.15
- 中山和彦, 「沖縄米軍建築施設ルポ」, 日経アーキテクチャ, 11月9日号, 1984, pp.148-55
- 長山嘉行, 「コンクリート工事現場雑感」, 建築士, no.1, 1957, pp.9-10

- 20年史編纂委員会, 「沖縄にありてー琉球セメント20年の歩みー」, 琉球セメント株式会社,  
1981
- 野原康輝, 「沖縄のブロック建築」, 建築士, no.2, 1958, pp.48-50
- 福島駿介 他, 「沖縄の離島におけるRC造住宅生産に関する研究」, 日本建築学会大会学  
術講演梗概集, 1990, pp.33-36
- 又吉真三, 「戦後の住居の遷り変り」, 建築士, no.7, 1972, pp.8-12
- 又吉真三, 「琉球歴史・文化史総合年表」, 琉球文化社, 1973
- 松根盛昭, 「復金のあしあと」, 建築士, no.4, 1960, pp.80-85
- 宮城悦次郎 他, 「特集アメリカ文化との遭遇」, 新沖縄文学, 89号, 沖縄タイムス社,  
1991, pp.14-100
- 村松貞次郎, 「新建築技術叢書8ー日本近代建築技術史ー」, 彰国社, 1979
- 村松貞次郎, 「ビジュアル版日本の技術100年第6巻ー建築土木ー」, 筑摩書房, 1989
- 安元一郎, 「住宅資金貸付について」, 建築士, no.4, 1960, pp.78-80
- 山里銀造, 「琉球の住宅事情」, 建築士, no.2, 1958, pp.40-46
- 山里銀造, 「沖縄の居住形態の変遷」, 建築士, no.7, 1972, pp.4-7
- 琉球新報編集部, 「そこが知りたい(30)トイレ」, 琉球新報夕刊, 1991年8月31日, p.6
- 琉球政府企画統計局統計基準課, 「第1回琉球統計年鑑1955/56年」, 琉球政府企画統計局,  
1957
- 琉球政府計画局統計庁総務課, 「第5回琉球統計年鑑1960年」, 琉球政府計画局統計庁,  
1961
- 琉球政府企画局統計庁分析普及課, 「第10回琉球統計年鑑1965年」, 琉球政府企画局統計庁,  
1967
- 琉球政府企画局統計庁分析普及課, 「第15回琉球統計年鑑1970年」, 琉球政府企画局統計庁,  
1972
- 琉球政府工務交通局建築課, 「台風記録によせて」, 建築士, no.2, 1958, pp.50-53
- 琉球土地住宅新聞社, 「琉球土地住宅全書」, 琉球土地住宅新聞社, 1970
- 琉球列島米国民政府, 「琉球における経済的農村モダン住宅」, 琉球列島米国民政府, 1960
- Maxwell FRY & Jane DREW, 「Tropical Architecture in the Humid Zone」, B.T.Batsford  
Ltd. London, 1956
- Karl C. COD, 「The Corps of Engineers : The War against Japan」, Center of Military  
History United States Army, 1988
- U.S. Army Engineer Division Pacific Ocean, 「Okinawa Military Family Housing and  
Community Support Facilities Site Criteria Development」, U.S. Army Corps  
of Engineers, 1982